

# 地域の道しるべ新聞

集落を支える現役世代と次世代が、ともに考え、つながる

コロナ禍で、区の活動が制限され、他の集落との情報共有も難しかった2020年。2021年2月に実施した『集落運営に役立つ学習会』では、区長や区の役員としてどんなことに悩み、取り組んできたかの事例発表と情報交換がzoomを使用したオンライン形式で行われました。

当日の様子は以下（QRコードやYouTube）よりご視聴いただけますので、普段から区の運営に関わりのある方もそうでない方もぜひご覧ください。

## 令和2年度集落運営に役立つ学習会

2021年2月23日(火・祝)13:30-15:30

参加者：区長、常会長ほか計14名

### ◇事例発表①

川久保区 新海長治区長

「公民館を活用した居場所づくり」

### ◇事例発表②

柳翠区 伴野一区長

「常会の合併に向けた組織の設置」

### ◇座談会（情報交換）



 YouTube 動画（期間限定公開 R3.6月まで）



（前半）



（後半）

「佐久穂町行政チャンネル」  
で検索

## 視聴レポート（佐久穂町地域おこし協力隊 炭谷）

最初の事例発表は川久保の新海さん。課題を自分たちで解決できる区を理想としたが、現実には高齢者の孤立や人間関係の希薄さが目についた。そのため、まずは基本となる顔の見える関係を醸成することを考え、卓球場の整備や公民館を仲間づくりの場となるような仕掛けを始めた。

常会の合併に試行錯誤しているのは高野町柳翠区の伴野さん。役員の手配の不均衡を解消すること、現役世代への負担を減らすことを目的として協議会を形成。慣れ親しんだ五軒組のつながりがなくなるのではないかと、といった高齢者からの意見も根強く、世代間の意見の調整に努めている。合併の過程を通して、区民同士で話す場を作ること、その積み重ねが区の継続性につながると語った。

今回の学習会では、地域課題に対して、現実即した形で柔軟に変化させようとする区長さんの姿を知ることができた。時代の変化によって、求められる区の在り方も変わる。残したほうがよいことと、やめたほうが暮らしやすくなること、そのせめぎあいのようなものもある。頑なに体制を維持しようとするのではなく、対話を繰り返し、変化していけることが区の運営をするうえで強みになると感じた。つながりが希薄になったいま、区長さんは、人と人との関係を耕し、その対話の土壌を育てているようにも映った。

コロナ禍もあり、時代とともに従来の区の活動のあり方が変わろうとしています。自分の区にとって何が大切で、どう変わっていきたいのかみんなで話す場づくりを町はお手伝いします。

お気軽に総合政策課政策推進係までご相談ください。

電話：0267-86-2553（直通） メール：seisaku@town.sakuho.nagano.jp

発行／佐久穂町役場 総合政策課